

# コロナワクチン後の帯状疱疹後神経痛に 対して鍼灸とホメオパシーの併用が奏功 したケース、セルフケア（お灸）の勧め

日本ホメオパシーセンター仙台錦ヶ丘

橋本孝子

JPHMA認定ホメオパスNo.0906

# はじめに

- ・ コロナ禍になり、コロナワクチン接種後「帯状疱疹後神経痛」になる人が増えている
  - ・ その痛みは、鎮痛剤も効かない激痛で心身ともに消耗してしまう
  - ・ 25年間鍼灸師として臨床を行い、そのうちの10年間はホメオパシーが加わり様々な症状への対応が可能になった
  - ・ 特に帯状疱疹にはホメオパシーにセルフケアで出来る
- お灸を加えることでホメオパシーの効果を一層引き上

# 私が分類する鍼灸とホメオパシーの

3

## 得意分野の比較

・ 鍼灸、手技

・ ホメオパシー

- ・ **鎮痛作用** (筋肉系、神経系が得意)
- ・ **自律神経の調整**
- ・ **血流改善**
- ・ **臓器のサポート**
- ・ **その場で安心感が得られる**

- ・ **急性症状への即効性** (鎮痛を含む)
- ・ **心身共のトラウマに対応**
- ・ **罹り切っていない症状に対応**
- ・ **薬の影響へ対応**
- ・ **臓器のサポート**

**激しい痛みを伴う症状には鍼灸とホメオパシーの併用は大変に有効！！**

# 鍼灸治療の効果のイメージ



・鍼によってガチガチに固まった

岩盤（身体）にヒビを入れる

・ヒビを入れたところにお灸で

温熱を入れてヒビを太くする

事で様々なものが効きやす

# お灸は日本を代表するセルフケア

## ・もぐさの材料

### ヨモギの葉の裏の毛（絨毛）



### ・お灸の効果

- ・ 温熱効果によって副腎皮質ホルモンが分泌される
- ・ 白血球が活性化され炎症や痛みを抑制する
- ・ 熱を入れる事でヒートショックプロテインが分泌されダメージを受けた細胞を修復する

# 【クライアント 58歳 男性】

【主訴】 帯状疱疹後神経痛（顔面頭部）

【主な症状として】

- 1、風があっても激痛
- 2、部位は右半分の顔面、頭部
- 3、夜も劇痛で震える、冷や汗、あぶら汗
- 3、寝不足から慢性強度の疲労感、不安感、



# 【タイムライン1】

- ・ 2021年6月にコロナワクチン1回目接種、  
9月に  
2回目を接種
- ・ 2回目接種後は38度台の熱が2日ほど続き5  
日間程  
倦怠感が続いた
- ・ 半年が過ぎた2022年4月4日の朝に右目が  
痛くて

## 【タイムライン2】

- ・皮膚科で帯状疱疹との診断を受けた
- ・痛みが引かないと訴え続けると2022年4月20日  
ペインクリニックを紹介されて、そこでは  
「帯状疱疹後神経痛」と診断
- ・「星状神経節ブロック」を受けた  
3回受けてみても痛みは3時間で戻ってきてしま  
う



# 最優先は痛みの緩和！！

- ・ 頓服でNat-m 30Cをリピート
- ・ 痛くないところからお灸をしてゆく。1回目は、4度の



# 1回目施術後の感想



# (TBR) 2022/5/11

1: 4 部位 – 頭部

2: 977 全般 – 失神（気を失いそうな感じ、卒倒）

3: 982 全般 – 浸食されるような痛み

4:1319 皮膚全般 – 焼けるような痛み

※ TBR : The Bonnighausen repertoryの略

# 【TBR結果】

順位	レメディール	出現回数	度数合計	1	2	3	4
1	Phos.	4	13	3	3	3	4
2	Sil.	4	12	4	3	1	4
3	Sep.	4	11	3	4	1	3
4	Calc.	4	11	4	2	2	3
5	Merc.	4	11	4	2	2	3



Phos.

フォスフォラス／燐 (リン)

2022/5/11

- 随時 サポート φGlutathi (グルタチオン)  
 +Hyper.30C (オトギリソウ)  
 +Phos.30C (燐)  
 Herp- z .30C (ヘルペスノゾース)
- 朝 1 アルポ +Carb-an.LM01 (獣炭)
- 朝 2 アルポ +Syph.LM02 (梅毒)
- 夜 アルポ +Nux-v.LM03 (マチンシ)  
 +Varic.LM03 (水疱瘡ノゾース)
- 頓服 砂糖玉 Nat-m30c (岩塩)

## 2回目以降の鍼灸施術

2回目 5月12日

痛みが昨日の夕方から再現、お灸を背中と顔にしてもらい、頓服のレメディをとって痛みが落ち着き短い時間でも徐々に痛みがなく眠ることが出来た。

3回目 5月16日

毎日レメディとお灸を続けている。痛みはあるが眠れるようになってきた。

4回目 5月23日 激痛は殆どでなくなってきた仕事も普通にできるようになってきた。

この後は、セルフケアで対応している。

## 【結果】

- ◆ 2022年4月から始まった鎮痛薬、麻酔の注射も効かない顔面、頭部の激痛がお灸とレメディを続けることで頓服のレメディで通常的生活が出来るように改善した。

## 【考察】

◆ コロナワクチンを2回打った事で、免疫力が落ち今までなかったことのない帯状疱疹を発症したと考えられる。

◆ 鍼灸によって、自律神経の調整、血液の循環の改善を図ることで落ちてしまった免疫力を急速に上昇させたことで、急性期に働くホメオパシーのレメディの相乗効果が増したものと考ええる。

◆ お灸は、レメディとの相性もとても良いので特に痛みの強い症状にはお灸も試してレメディの効果を